



うまい・きれい かほく米づくりの運動では10の技術の実践を推進しています。確実に実践しましょう。

推進技術	目標	チェック
1~8	1. 播種量 (うす播き励行) 2. 育苗日数 (健苗育成) 3. 植付本数 (細植え励行) 4. 栽植密度 (優良茎確保) 5. 適正な施肥 (栄養凋落防止と登熟向上) 6. 田植え時期 (早植え防止) 7. 中干し・溝切り (遅発分げつ抑制) 8. 除草・防除 (畦畔等除草・カメムシ防除徹底)	
9	水管理 (飽水管理の徹底) ・中干し後から出穂までの約1か月 (コシヒカリ) の飽水管理 ・出穂から刈取り直前までの1か月以上の飽水管理	
10	刈取時期 (適期刈取りの励行) ・籾の黄化程度に応じた刈取り	

栽培履歴簿と自己点検 (GAP) シートを記帳し、最寄りの支店へ必ず提出してください。

今月のポイント1 適期刈取りに努めましょう。

<コシヒカリの刈取適期>

	平坦地帯	山間地帯
予想刈取適期	9月1日~9月5日	9月3日~9月7日

籾黄化率 80~90%  
 籾水分 25%

登熟積算気温 (高温年) 980℃  
 (登熟積算気温: 出穂してからの日平均気温の合計)

※刈取り時には必ず黄化率を確認して適期に収穫しましょう。

※刈取適期にあわせて、**各施設も9月1日(日)より荷受けいたします。**

- 籾黄化率80%から刈り始めましょう。
- 遅刈りは胴割粒発生の原因となります。



JAの営農の手引きの裏表紙を参考にしてください。

今月のポイント2 乾燥・調製は適正に行い、乾燥ミスによる胴割粒の発生を無くそう。  
 ⇨営農の手引き41ページも参照ください。

<乾燥作業の注意点>

- ① 品種が変わるごとに、コンバイン、乾燥・調製施設の清掃をしっかりと行う。(異品種混入防止)
  - ② 水分計 (乾燥機の自動水分計も含む) は事前に調整・点検を行う。
  - ③ **収穫した生籾を長時間放置せず、直ちに乾燥機に入れる。(ヤケ米防止)**
  - ④ はり込み後1~2時間の送風を行い、生籾の水分を均一化し、引き続き本乾燥を行う。(胴割粒防止)
  - ⑤ **急激な乾燥や高温乾燥は行わない。(胴割粒防止)**
  - ⑥ 水分過多・過乾燥に注意し、水分は14.5~15.0%目標に仕上げる。
- ※もち米については、全てハゼるよう二段乾燥を行いましょう。

<籾摺り・選別・計量>

- ① JAに出荷される場合は、**皆掛け重量 紙袋(30.5kg以上) フレコン(1,092kg以上) の量目不足にならないよう注意する。**  
 ・近年、皆掛け重量の量目不足のものが見受けられますので、注意してください。  
 ・自動計量器の点検を必ず行ってください。
- ② 肌ズレ米の防止に努める。  
 ・籾摺り機のロールの間隔調整は適正に行ってください。  
 ・乾燥後一昼夜置いて穀温が常温に戻ってから籾摺りを開始します。
- ③ 整粒歩合80%以上にするため、適正網目を使用する。  
 ・未熟粒を除くため、**ライスグレーダーの網目はL~LLサイズ(1.85~1.90mm) を使用してください。**  
 ・適正な流量で選別してください。

裏面に続きます

栽培履歴簿と自己点検(GAP)シートを記帳し、最寄りの支店へ提出してください。

各施設のコミヒカリの荷受けは、9月1日(日)より開始します。

稲こうじ病にかかった稲は刈取前に取り除いてください。

クサネムは、刈取前に抜き取ってください。

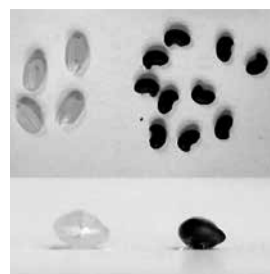
**注意事項**

① **クサネムは刈取前に必ず取り除くこと。**

- ・クサネムの種子はお米と同じくらいの大きさのため、  
 籾摺り時に取り除くことが困難です。
- ・クサネムの種子は検査時に異種穀粒とみなされ、等級を下げる原因になります。

大きさ

厚み



玄米    クサネム種子



クサネム

② **稲こうじ病にかかった籾も刈取前に取り除くこと。**

混入している場合は規格外となる。

- ③ 機械の点検整備・農作業安全に努める。
- ④ 玄米の盗難防止のため、倉庫の施錠等、対策をとってください。

**刈取後の雑草対策**

雑草名	除草剤名	10a 当たり散布量	散布時期
イボクサ オモダカ クログワイ コウキヤガラ等	ラウンドアップ マックスロード	原液 1ℓ を 水 25～50ℓ で希釈	雑草の生育期 (雑草が、わらの上まで生育してから散布してください。)
ヒエ	石灰窒素	40kg	稲刈り後 1 週間以内 (ヒエが発芽し、その後、寒さで枯死します。)

除草前に耕起すると、ちぎれた球根や茎が土中に混ざりこみ、除草作業が困難になります。  
石灰窒素を散布した後、1 か月間は耕起しないでください。  
石灰窒素は、窒素成分が含まれるので、翌春の基肥量を 2 割程度減らしてください。

**元気が見える土づくり対策**

JA石川かほくでは、「土づくり運動」に取り組んでいます。

① **秋の好天のうちに以下の資材を散布し耕起する**

- ・土づくり資材の施用：かほく<sup>だいち</sup>大地の恵<sup>めぐみ</sup> Fe 3袋 (60kg) /10a
- ・有機物の投入：堆肥 2トン/10a

② **JA石川かほく管内の地力は低い状態です。**

- ・土壌酸度は、目標値のやや低めですが、問題ありません。
- ・土壌中の有機物(腐植)が少ない傾向にあります。
- ・土壌中のリン酸、ケイ酸も目標値より低い状態です。

**令和5年度 JA石川かほく管内土壌分析平均値**

項目	現状	目標値	項目	現状	目標値
土壌酸度 (pH)	5.5	5.5～6.5	可給態リン酸含量	17.0mg	20mg
腐植含量	2.5%	3.0%	可給態ケイ酸含量	19.7mg	30mg

- ・自然災害等(イノシシ被災含む)によって減収が予想される場合には、収穫前に石川県農業共済組合(TEL:239-2555)に被害申告を行ってください。